

平成19年度 第9回事業推進委員会・議事録

開催日 : 平成19年12月17日 (月) 午後4時～午後6時  
場所 : 京都コンピュータ学院 京都駅前校 新館4階会議室  
メンバー : 委員長 京都電子計算(株) 駒井 一正  
副委員長 島津エス・ディー(株) 山本 孝  
委員 アド・プロヴィジョン(株) 河合 博康  
委員 (株)京信システムサービス 中川 敦  
委員 (株)近畿リサーチセンター 小島 耕一郎  
委員 けいしんシステムリサーチ 小野 隆夫  
委員 (株)ケーケーシー情報システム 宇野 悟史  
委員 総合システムサービス(株) 古川 峰生  
委員 (株)たけびし 中村 徹  
委員 ワールドビジネスセンター(株) 石黒 謙一 (欠席)  
委員 中信コンピューターアンドコミュニケーション(株)  
三上 雅弘  
委員 システムプロデュース(株) 中川 茂之  
事務局 京都コンピュータ学院 和田 壽郎

臨席(招請) 会長 京都情報大学院大学・京都コンピュータ学院  
長谷川 亘

主たる議題 (議事進行は駒井委員長が行う)

1. 長谷川会長による ANIA 案件説明および確認の件
2. 会員増強活動状況の件
  - ①新入会員入会申込
  - ②各委員取組み進捗確認
3. 新年度事業計画と予算編成に向けた基本確認と日程の件
4. 1月の理事会、新春セミナー、賀詞交歓会の件
5. 各委員会活動報告
6. 「京都自律移動支援プロジェクト実行委員会」報告：山本副委員長
7. 事務局報告

1. 長谷川会長による ANIA 案件説明と確認の件

平成19年10月12日の ANIA 理事会決定事項である会員拡大策について、会長より当委員会での協議要請があり、第8回事業推進委員会(11月14日開催)において、協議を行った。

協議の結果以下の疑問点について、会長に委員会へのご出席を仰ぎ、説明をいただいた。

- ①未加入県の実情や実態を把握する必要がある。(現状では何処も実情を把握していない)
- ②加入促進のための ANIA の PR 資料などを ANIA 事務局で整備して説明する必要がある。
- ③世話人5人で5ブロックを担当となっているが、理事12名でももう少し分散できないか。  
中部圏は三重以外は会員であり、中部と近畿は別ブロックでよいのではないか。  
京都が中部と近畿の6府県を担当するのはなぜか。
- ④企業会員概念の導入については J I S A と AN I A の関係などについて検討するなど慎重に進める必要はないか。(JISAは全国の企業が正会員であり、ANIAが新たに企業会員の勧誘をする事になれば、会員獲得で競合関係になるが、JISAから補助金を貰って活動しているのに、JISAと話は出来ているのか?)

### 【会長よりの説明骨子】

「AN I Aは旧来の体制から一変し、新生AN I Aとして新執行体制が敷かれた。全国団体とは云え、未加入県が25県もあり、現行22県の加入状況では半数にも及ばず、全国団体として認知されるためには、早急に会員拡大、即ち未加入県への加入勧奨が必要である。先ず未加入県の情報関係団体へ正会員としての加入勧奨を行うとともに、正会員として直ぐに加入が困難またはどうしても不可能な県については、企業会員制度を新設することとなった。未加入県においては、企業会員制度を新設し一企業でも会員として入会して貰うことにより、裾野を広げることになり、実質的な全国団体としての体を確立していけるのではないかと考えられる。企業会員制度の導入について、J I S Aとのすり合わせなどは行っていないようであるが、その必要があるかどうかも含め本部へ確認する。京情協の会員増強が先決であり、AN I Aの会員拡大を優先する積もりはないが、AN I Aが全国団体として強固な組織になる事は、将来的には本協会にとってもメリットがあると考えられるので、協力すべきであるとする。また世話人5人で5ブロックを担当となっているが、各ブロックの既加入県と協力して拡大活動に当たることであり、世話人県だけの責任で会員拡大を行うものではない。ブロック活動費として5万円限度で支給されるが、具体的な活動方法などはブロックに委ねられている。本件の問題については次回の理事会で説明し、本協会としての協力対応について理事会の理解を得られるようにしたい。」

## 2. 会員増強活動状況の件

### ①新入会員入会申込

以下の4社の入会申込企業について、事務局長より会社概要等の説明が行われた。  
尚、平成20年1月17日開催の理事会で承認を得るべく、議案として上程予定である。

#### 【正会員】2社

- ・株式会社エム・アイ・ケー
- ・エフビットコミュニケーション株式会社

#### 【賛助会員】2社

- ・日本ヒューレット・パッカー株式会社中部・西日本支社
- ・チエルキオ株式会社

### ②各委員取組み進捗確認

委員各位より会員増強取組みについて、進捗状況の報告があった。

## 3. 新年度事業計画と予算編成に向けた基本確認と日程の件

第3四半期各委員会事業報告書（理事会報告用）と新年度計画案を次回事業推進委員会で検討するので1月8日までに事務局に提出する。

## 4. 1月の理事会、新春セミナー、賀詞交歓会の件

平成20年1月17日に開催される理事会、新春セミナー、賀詞交歓会のスケジュールや準備状況について以下の通り確認された。

(1) 第4回理事会 : 14:00~16:00 京都コンピュータ学院京都駅前校新館4階会議室

- ・議題は新入会員の承認が挙げられる。
- ・検討事項として、来年役員改選期であり、相応の対応が必要であることが確認された。
- ・AN I Aの会員増強については、理事会で報告し、議論すべき問題である。

(2) 新春セミナー : 16:30~18:00 京都コンピュータ学院京都駅前校6階ホール

受付: 京都コンピュータ学院職員にお願いする。

司会: 中川地域情報化委員長

開会挨拶: 長谷川会長

- (3) 賀詞交歓会 : 18:30~20:30 リーガロイヤルホテル京都 2階「桜の間」  
 開演の挨拶:長谷川会長  
 司会、乾杯、中締めなどの担当役割分担については、検討中。

5. 各委員会第2四半期活動状況報告の件

1) 技術委員会 (三上委員長から下記の技術委員会報告書により説明が行われた。)

業推進委員会報告事項	技術委員会				
1. 「SE/システム高度化研究会」の実施状況					
12月まで4回の研究会を開催、20年2月13日(水)成果発表会を開催					
	第1回	第2回	第3回	第4回	成果発表会
開発効率&新技術問題研究会 ■「開発効率を向上するため」の新技術導入に関する各社取り組み状況と課題、解決方法を考える	9/18 14名	10/16 12名	11/13 11名	12/18	2/13
情報セキュリティ問題研究会 ■各社における「情報セキュリティ」の取り組み変遷	9/19 5名	10/17 5名	11/14	12/12	
品質問題研究会 ■顧客からのクレームデータ分析から品質均一化を考える	9/27 10名	10/25 8名	11/15	12/13	
2. SE/システム高度化研究会成果発表会開催について					
(1) 開催要領					
・成果発表会:平成20年2月13日(水)18時から19時(研究会ごと20分の発表) 平安会館3階羽衣の間					
・ご苦労さん会:成果発表会終了後、平安会館3階嵐山の間にて開催(参加無料)					
(2) 開催の案内					
・12月開催の各研究会において世話役からメンバーに周知を願う。					
・事業推進委員会各位の参加は12月17日の事業推進委員会をお願い。					
・共催者中小企業技術センターへは12月20日頃、別件で訪問時に委員長よりご案内。					
3. 20年2月8日(金)技術セミナー					
(1) テーマと講師:「Web2.0とコラボレーションの勧め」 NEC 市場開発推進本部 本部長 塩川 正二 氏					
(2) 開催要領					
・開催日時:平成20年2月8日(金)15時30分~17時					
・開催場所:平安会館 2階白河の間					
(3) 共催・後援の依頼等					
・事業推進委員会承認後、年内に関係先を訪問し、依頼する。また開会の挨拶を共催予定の京都府中小企業技術センター 今泉所長に依頼する。					
・会員向案内は1月初旬に行う。					
以上					

2) 広報委員会 (河合委員長より以下の資料に基づきより説明が行われた。)

平成 19 年度第 6 回広報委員会議事録

開催日：平成 19 年 12 月 14 日(金) 17:00～18:00

会 場：京信システムサービス様会議室

出席者：委員長・副委員長・委員 5 名・事務局長 計 8 名

議 事

1. インターキョウト 36 号 (1 月 31 日発行予定) の内容確認

○ 1 ページ(表紙)

- ・ 巻頭の写真 → 雪景色のものを新春にふさわしい明るい素材に差し替える。
- ・ 会長直言 → 1/10 締め切り予定のため未編集

○ 2 ページ

- ・ 新春セミナー・賀詞交換会開催報告 → 1/17 開催予定のため未編集
- ・ 京都情報化フォーラム開催報告 → 編集済み
- ・ 第 3 回経営研究会開催報告 → 編集済み

○ 3 ページ

- ・ 新卒採用支援セミナー開催報告 → 編集済み
- ・ 会員便り(元気印の企業紹介):(株)コムウェイ → 編集済み
- ・ 会員便り(元気印の企業紹介):サツマ通信工業(株) → 編集済み

○ 4 ページ

- ・ 第 10 回ボーリング大会開催報告 → 編集済み
- ・ 協会だより(お知らせ):下記イベントの開催案内 → 未編集(事務局)  
新入会員紹介(賛助会員 5 社、他に数社入会見込)  
技術セミナー(2/8 開催予定)  
第 2 回情報交換広場(2/21 開催予定)  
SE 交流会・成果発表会(2/13 開催予定)  
平成 19 年度通常総会(3/28 開催予定)
- ・ ホームページコンテスト審査結果 → 未編集(河合委員長)  
スペース的に無理があれば～ミニ・ポエム～を割愛する。  
表彰式が 2 月に行われるので次号にも掲載する。
- ・ Cofee Break ～ミニ・ポエム～ → 未編集(湯下委員)
- ・ 編集後記：未編集(田中会員)

○ 以上未完成部分は 1 月 18 日を締め切りとし、PDF ファイル配信により最終確認を行う。

2. 京情協 Web について

○ 田中委員からの現状報告

- ・ 月初に掲載情報の有無確認を各委員長宛にメールを発行しています。

○ 和田事務局長からの報告

- ・ 地域情報化委員会の『採用耳より情報』を PDF 形式でアップしました。

3. 会員名簿について

○ 和田事務局長からの現状報告

- ・ 未提出の会員企業が数社あって、何度も催促しなければならない状況に苦労しているが、近いうちに発行できそうです。

4. 来年度の事業計画案の検討

○ 会報インターキョウトのあり方について

- ・ 予算との兼ね合いもあるが現状どおり年 4 回の発行とする。
- ・ 内容については Web との連携を図る。
- ・ 発送費は従来管理費からの支出としているが、これを発行費に含める形で予算化する。

○ Web コンテンツと管理方法について

- ・ 期限切れ情報の削除については、月初の掲載情報有無確認と併せて削除の確認も行う。
    - 会員名簿のあり方について
  - ・ 現在の紙ベースの場合、予算としては5万円程度であるが、全会員企業から新情報を入手するのに手間ひまがかかりすぎる。
  - ・ 名簿は必要か、紙ベースのままかあるいは Web ベースとするか、等々アンケートをとるという案も出された。
  - ・ 広報委員会としては、アンケートは行わず Web でデータ化するという方向で事業推進委員会に諮ることとする。
    - 広報のあり方について
  - ・ 当初考えていた京都府や京都市、商工会議所等の記者クラブへの広報活動については戻す様子状態にあるとの認識で一致した。
  - ・ 改善策については次回以降に検討する。
5. その他
- 今回は特に有りませんでした。

次回は、平成20年2月8日(金)17時から行います。場所については後日確定します。

以上

3) 地域情報化委員会 (中川委員長から下記報告書により説明がなされた。)

**【第9回事業推進委員会資料】**

平成19年12月17日

**平成19年12月度 地域情報化委員会活動報告**

**1. リクルートにおける大学との連携**

- 1 学生向け業界解説資料(ガイドブック)の作成・配布について
  - ・ 計3点の資料(1点は郵送依頼中)を収集し、調査・収集は終了。
  - ・ 調査結果をどう生かすかは大学訪問のヒアリング結果を踏まえて今後検討する。
- 2 近隣大学との採用に関する長期的な連携の確立を目指した広報活動について
  - ・ 10月に訪問した4校のヒアリング内容の整理中。12月末までに内容の整理を行い、1月以降に今後の活動への反映を行う予定。
- 3 会員企業向け新卒採用支援セミナー開催について
  - ・ 11月27日(火)に開催した。出席者数は24名。
- 4 京情協主催の合同企業説明会の開催(KVBCとの共催も検討)について
  - ・ 新卒採用支援セミナー時に行ったアンケートで、各社の参加の意向や費用の限度額、開催時期などの調査を行った。この結果を受けて、今後検討する。
- 5 近隣の大学の学内企業説明会に京情協としてエントリーする件について
  - ・ 大学訪問のヒアリング結果を受けた上で、検討することとする。
- 6 諸々の採用に関する情報の会員企業への発信について
  - ・ 「採用耳より情報」の初回分が京情協HPへ掲載が完了し、12月10日に会員への通達を行った。今後1~2ヶ月に1回発行する予定。

**2. IT コンソーシアム京都関係**

12月12日(水)に第2回地上デジタル放送活用部会が開催されたが、委員長、副委員長とも所用により今回は欠席とした。  
内容的には「スポットワンセグ放送の実証実験」と言う事で、京都駅ビルでの実証実験へのモニ

ター参加がメインのテーマであった。

3. 賀詞交歓の新春セミナー

- ・ 12月7日に京都産業21と京都府中小企業技術センターを訪問し協賛依頼を行った。
- ・ 12月10日に案内を配布。

4. 京都自律移動支援プロジェクト実行委員会関係

- ・ 11月27日(火)に第1回実行委員会が開催された。(山本副委員長が代理出席)

以上

4) 経営委員会 (小島委員長欠席につき副委員長 中川 敦 氏より下記について報告があった。)

【第9回事業推進委員会資料】

経営委員長 小島 耕一郎  
(文責) バンテック(株) 相原

平成19年度 第3回 経営委員会 議事録

1. 出席者 (順不同、敬称略)

- ① 小島耕一郎 (近畿リサーチ)                      ⑦奥菌弘行 (NTTコミュニケーションズ)
- ② 上田治文 (京都コンピュータ学院)              ⑧小林正人 (システムディ)
- ③ 湯浅重義 (たけびし)                              ⑨藤関治清 (ユニシス)
- ④ 森脇克巳 (ワールドビジネスセンター)        ⑩中矢貴久 (スリーエース)
- ⑤ 中川 敦 (京信システムサービス)              ⑪相原義一 (バンテック)
- ⑥ 樋上弘稔 (京信システムサービス)              ⑫和田壽郎 (事務局)

京都府中小企業技術センター 企画総務部 企画情報室 主任 廣原 美保

2. 日時 平成19年11月15日(木) 17:00~19:00

3. 場所 京都コンピュータ学院 京都駅前校 新館4階会議室

4. 議題
- (1) 景気短観調査 (京都府中小企業技術センター: 廣原様) 17:00~18:00  
会員各社からのアンケートを元に第3四半期景気短観を話し合った
  - (2) 19年度 経営委員会行事報告と計画確認 18:00~19:00
  - (3) 20年度 経営委員会事業計画検討
  - (4) 事務局連絡事項
  - (5) その他

5. 議事

議事進行: 委員長 小島耕一郎 (近畿リサーチ)

(1) 景気短観調査

①10~12月状況 (昨年同時期比較)

(単位: 会社数)

項目	増加傾向	横ばい	減少傾向	計
商談案件	5	11	3	19
受注状況	6	8	5	19
営業利益	3	12	4	19
受注見通し	8	7	4	19

②10～12月状況（7～9月比較）

（単位：会社数）

項目	増加傾向	横ばい	減少傾向	計
商談案件	11	7	1	19
受注状況	9	8	2	19
営業利益	2	14	3	19
受注見通し	6	12	1	19

③各社営業課題

- ・ 優秀人材確保

(2) 本年度経営委員会行事状況報告

①経営研究会実績予定報告

説明：中川副委員長

- ・ 第3回 平成19年11月15日（木） 15：00～17：00  
場所 京都コンピュータ学院西館4階会議室  
テーマ 「裁判員制度について」  
講師： 京都地方裁判所第二刑事部 裁判官 坂口 裕俊 様

②情報交換広場

説明：森脇副委員長

- ・ 第1回 平成19年8月23日（木） 19：00～21：00  
場所 ばるるプラザ京都 6階  
テーマ 「人事評価制度について」

②特別調査（補助金対象）「高齢者継続雇用アンケート結果説明」

説明：上田副委員長

- ・ 分析結果説明
- ・ 12/20 に社団法人京都府高齢・障害者雇用支援協会様の報告会が開催される。
- ・ 希望する分析内容があれば、11/20 迄に上田副委員長にメールする。

(3) 20年度 経営委員会事業計画検討

- ・ 受託ソフト開発における進行基準の義務化について
- ・ プログラム著作権等についての契約方法
- ・ オープンソース商用使用時の法的整備
- ・ 健康
- ・ 第4回経営委員会までに、各自次年度テーマを考えておく。

(4) その他

- ・ 次回委員会(12/20)で来期体制を選定する。  
自薦他薦もしくは、意見があれば小島委員長に連絡をする。  
意見がなければ、現体制を継続する。
- ・ 次回経営委員会（12/20）  
場所：京都コンピュータ学院 京都駅前校 新館4階会議室  
15:00 京都府高齢・障害者雇用支援協会様の報告会  
16:00 経営委員会  
場所移動  
18:30 忘年会  
店名： うをすえ（インターネットで照会できます）  
住所： 京都市下京区綾小路通東洞院東入る  
TEL： 075-351-1437

以上

6. 「京都自律移動支援プロジェクト実行委員会」報告：山本副委員長

平成19年11月28日  
事業推進副委員長 山本

「京都自立移動支援プロジェクト実行委員会」報告

11月27日に「京都自立移動支援プロジェクト実行委員会」に中川委員長代理として出席しましたのでその報告を下記します。

出席者は実行委員及び関係者を含め20名で、欠席者なしの全員出席での第1回実行委員会の開催となりました。

出席者の顔ぶれもそうそうたるもので、京情協として出席し面子は保たれたと思います。

委員会進行内容としても、各委員及びオブザーバーも含め全員が意見及び質問を述べるとともに、それに対する応答も明確に述べられる等、内容の濃い実行委員会でありました。

【出席者】

委員長	東京大学教授	坂村 氏	
副委員長	京都大学教授	富田 氏	
	同志社大学名誉教授	岡本 氏	
	京都府副知事	猿渡 氏	
委員	同志社大学教授	金田 氏	
	(独)情報通信研究機構副研究長	若菜 氏	
	京都府社会福祉協議会常務理事	森 氏	
	京都ライトハウスF S トモニー所長	高橋 氏	
	京都府立植物園長	松谷 氏	
	宇治市理事兼製作室長	溝口 氏	
	京都新聞社編集局メディアセンター長	井村 氏	
	(社)京都府情報産業協会	山本	
オブザーバー	近畿地方整備局企画部長	深沢 氏	
	近畿総合通信局情報通信部長	島田 氏	
	YRPユビキタスネットワークング研究所長	山田 氏	
事務局	京都府企画環境部次長	松田 氏	
	京都府企画環境部惨事	中村 氏	
	京都府企画環境部課長補佐	森木 氏	他2名

1. 京都府あいさつ

京都府副知事 猿渡 氏

2. 出席者紹介

事務局から出席者全員の紹介にともない各自自己紹介

3. 委員長あいさつ

東京大学教授 坂村 氏

4. 議事

1) 京都自立移動支援プロジェクト実証実験について

2) 府立植物園での実証実験計画について

3) 宇治市宇治橋周辺地域での実証実験について (源氏物語千年紀事業)

上記3項目について、事務局の森木課長補佐から説明がなされた。

京都自立移動支援プロジェクト実行委員会について

①設置の趣旨

「ユニバーサル社会」の実現に向け、ユビキタスネットワーク技術を活用し、個人に応じた様々な情報を提供することにより円滑な移動支援や施設・観光地の魅力向上につなげる「ユニバーサルデザインによる生活環境づくり事業」の実証実験にあたり、実験内容の検討や実験結果の評価等を行うことを目的とする。

②実証実験の時期と場所



平成20年3月 京都府立植物園

平成20年9月～10月 宇治市宇治橋周辺地域

③検討の内容

- ・実証実験の技術的検証に関すること
- ・ユニバーサルデザインの視点による実験内容の検証に関すること
- ・情報提供内容の検証に関すること
- ・その他、実証実験の目的を達成するために必要な事項に関すること

④設置期間

平成19年度～20年度末まで

⑤開催回数

年2回程度（平成19年11月、平成20年2月、5月、11月の予定）

□ 実証実験の趣旨

①趣旨

『ユニバーサル社会』の実現に向け、ユビキタスネットワーク技術を活用し、社会参画に必要となる「移動経路」「交通手段」「目的地」等の情報について、「いつでも、どこでも、だれでもが」アクセスできる環境を作っていくための検討及び実証実験を実施する。

②京都で実施する考課

- ・高齢者、障害者、外国人観光客などあらゆる人に対し、情報面でのバリエーションと移動支援の実現
- ・ケータイ産業の振興  
ケータイ国際フォーラムやユビキタス特区（京都ユビキタスミュージアム特区）と連携し、社会実験という形で先端技術の活用モデルを提示
- ・観光振興

観光入込客8000万人構想への寄与、源氏物語千年紀事業との連携

□ 実証実験の概要

①ICタグと携帯情報端末を導入し、来訪者・入園者（外国人や障害者等を含む）を対象として、観光地や園内のルート案内、観光地・観光施設・商店、植物、トイレ・休憩所、公共交通機関等の情報提供を実施

②視覚障害者や聴覚障害者でも利用可能な、テキスト、画像、音声、動画等を組み合わせた多様な情報提供を実施

③外国人向けの多言語（4ヶ国語）での情報提供を実施

□ 実証実験における検討内容

①有効なコンテンツ提供方法、内容の検討

- ・入園や観光客（外国人を含む）のニーズが高いコンテンツの内容検討
- ・利用しやすいコンテンツの提供方法の検討

②障害者への情報提供の手法、内容に関する検討

- ・視覚障害者や聴覚障害者が利用しやすいシステムの検討
- ・視覚障害者や聴覚障害者から必要とされるコンテンツの内容検討

③ICタグ技術の実空間での利用に関する検討

- ・無線マーカ、タグプレート、携帯情報端末等の実用上の信頼性の検討

④システムの運用方法の検討

- ・コンテンツの更新や携帯情報端末の貸出等の実運用を想定した体制の検討

上記内容説明の後、全委員が意見を述べ合い今後の検討課題としていくこととなった。

<主な意見>

- ・障害者や高齢者が携帯情報端末を使いこなせるものとなっているか。
- ・広く浅く、深く狭いが階層的に使い分けられコンテンツが必要である。
- ・健常者（外国人）も含めた全てを対象におこなうが、特に障害者に対するの考慮が重要である。
- ・決まりきったルート案内は不親切であり、現在位置がどこかを正確に提供し目的場所へいき

ためのコンテンツ提供が必要である。

- ・国土交通省にて行われてきた過去の実証実験結果の課題が、今回のプロジェクトにはどのように反映されるのか。
- ・奈良で行われた実証実験に参加したが、使い物にならない状況であった。
- ・宇治で以前実施された実証実験では、高齢者向けのコンテンツ内容となっていて若者にとっては飽きる内容であり、新しいコンテンツの提供が必要である。
- ・バリアフリーマップに基づいたコンテンツ提供が必要である。
- ・コンテンツの提供は、提供する側（コンテンツを作る側）のあるとあらゆる多くの知識を提供するのではなく、使用する側の立場に立ったコンテンツ作りが必要である。
- ・コンテンツとしては商店街の案内情報の提供も含めているが、何の店かの情報は提供しても、どこの店が美味しいかのランク付け情報の提供は行わないほうが良い。
- ・身障者が通りにくい場所の情報提供を外さないで（通りにくい場所に知り得たいものが存在する場合は）、そこまで行けるような情報提供をおこないこれ以上は危険等の案内を促すことのほうが、身障者にとっては健常者と同等の情報を得られる喜びを感じられる。
- ・身体障害者施設（ライトハウス）の協力を得て、身障者の意見も取り入れたコンテンツ提供を考えていくようにしたい。

<参考> ◆国土交通省での取り組みのこれまでの経緯と今後の取り組み方針

1) 取り組みの経緯

H16・H17

- ・神戸、愛知万博等で実証実験を実施
- ・システムの移動性の基礎的検証を行い、技術仕様書案を策定

H18

- ・技術仕様書案に基づき、意欲のある地方自治体と連携し、全国8箇所試験的運用を実施

2) 今後の取り組み方針

H19以降

- ・安全性、信頼性、利便性等の観点から、早期実用化が見込める利用サービスについては、平成20年度（2008年度）からの実用化を目指す
- ・自立移動支援システム全体については、平成22年度（2010年度）までにシステムを確立し、実用化を目指す

3) 平成19年度実証実験予定地域

青森県、東京都、静岡市、豊田市、和歌山県、神戸市、熊本県

以上

## 7. 事務局報告

①平成19年度 JISA 補助金承認額について

平成19年11月15日以下のとおり補助金申請に対し計950,000円の承認

- ・地域高度化事業交付金 650,000円
- ・「地域におけるIT技術者の育成」事業交付金 300,000円

②「京都ビジネス交流フェア2008」開催と広告協賛について

- ・ガイドブック広告協賛費 100,000円

以上をもって委員会議事は終了し午後6時に閉会した。

次回委員会は、日時 : 平成20年1月9日(水) 午後5時～7時

場所 : 京都コンピュータ学院京都駅前校新館4階会議室

以上